

機関番号：30107

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008 ～ 2010

課題番号：20520692

研究課題名(和文)

廃車フローの国際化とリサイクルネットワークの形成に関する経済地理学的研究

研究課題名(英文) An Economic Geographical Research of Internationalization of Used Car Flow and Formation of Recycle Network

研究代表者

浅妻 裕 (ASAZUMA YUTAKA)

北海学園大学・経済学部・准教授

研究者番号：70347748

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本から様々な国への潜在的廃棄物としての中古車輸出量の変化を明らかにした。中でもロシア、UAE、ニュージーランド向け輸出が多いことがわかった。また、輸出台数の変化には、輸出入に関わる制度の変化などの重要な理由があることが明らかとなった。流通量の変化は、事業所数の増減や移動の発生など、輸出入ディーラーに大きな影響を及ぼすが、その際、パキスタン人などの民族的なネットワークが大きな役割を果たしていることもわかった。

研究成果の概要(英文)：This study made it clear that the change of used car's flow as potential waste from Japan to various countries. Especially, it turned out that export for Russia, UAE, and New Zealand occupy most part of total export. Moreover, it turned out that change of the number of export is generated by change of the import and export regime of each country. Change of used car's flow has big influence on export and import dealers, such as increasing, declining and migration of their office. In this aspect, it turned out that ethnic networks, such as Pakistanis, have played the important role.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2009年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：経済地理学 環境政策論

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：自動車リサイクル、中継貿易、輸出、中古車、中古部品、廃車処理、循環型社会

1. 研究開始当初の背景

(1)現在、発展途上国での急速なモータリゼーションなどを背景として、新車のみならず、中古車や中古部品の国際的な移動が活発である。中古車や中古部品に関しては、すでに一定の使用期間を経ていることから、廃棄物としての潜在性が高いといえる。それらが使用されている国・地域で、リサイクル・廃棄

される際、静脈産業の育成や廃棄物処理・リサイクルに関わる制度が不十分であれば、不適正な処理による環境汚染の可能性が懸念される。これは環境保全と資源節約を可能にする「循環型社会」形成の観点からは重大な問題である。日本からは大量の中古車や中古部品が発展途上国などに輸出されており、我々はこの問題を軽視できない。静脈産業の

育成や廃棄物処理・リサイクルに関わる制度構築のためには、まずは中古車（廃車）・中古部品の流通や静脈産業の立地について把握する必要がある。

(2)自動車リサイクルに限らず、「循環型社会」形成に関する研究は、国際的な廃棄物の移動を視野に入れた段階に入っており、様々な方面から議論が行われている。しかし、これらの議論には循環の空間的スケールをどのように想定すべきか、という議論が抜けているように感じられる。廃棄物の管理・適正処理の空間システムを論じうる経済地理学的な研究が必要になっている。しかしながら、このテーマを扱う経済地理学は、主に国内での廃棄物移動や静脈産業の立地を扱うものであったため、本研究が必要とされた。これらのことを背景として、本研究が実施された。

2. 研究の目的

(1)本研究では、廃車に着目し、その流通の国際化とそれに伴って形成された現状の空間システム（リサイクルネットワーク）の現状を明らかにする事を目的とし、そのあるべき姿を提言することも視野に入れる。なお、本研究のタイトルで「廃車」としているが、中古車や中古部品を潜在的な廃棄物としてとらえており、中心的な研究対象は中古車・中古部品である。もちろん、輸出先での廃車リサイクルの状況についても関心を払っている。

(2)(1)の目的を達するために、①日本からの中古車・中古部品の国際的な流通の現状を明らかにする、②国内・海外において、その流通に関わる事業者（自動車静脈産業）の現状とその変化を把握することを目的とする。

3. 研究の方法

(1)貿易に関する統計等を利用した流通量の分析。輸出入双方で把握する必要があることから、日本の貿易統計、海外の貿易統計の両方を利用した。

(2)現地調査。国内・海外で、中古車・中古部品の輸出入ディーラー、リサイクル業者へのヒアリング。具体的には関係する業者の状況（立地する地域、立地件数、産業規模、従業員数や取扱台数、取引相手、取引先国など）とその変化についてである。

4. 研究成果

(1)廃車フローの国際化を明らかにした。本研究では、中古車を潜在的な廃棄物（研究分担者の外川健一により「廃車予備軍」という表現も考案された）としてとらえており、実質的には中古車輸出のフローを明らかにする作業が必要であった。外川・浅妻・阿部(2010、雑誌論文③)、福田・浅妻(2011、雑誌論文①)、

浅妻・阿部(2009、雑誌論文⑨)、竹内・浅妻(2009、雑誌論文⑩)等において、日本から世界各国への中古車輸出量とその変化について言及し、変化の要因についても整理した。明らかになったことは、日本からの中古車輸出先の「御三家」（ロシア、UAE、ニュージーランドを指す）が、様々な規制の変化等がありながらも、常に上位国に位置すること、ロシア向けについては、近接性もさることながら、ロシアからの北洋材輸入の帰り荷として輸出が発達してきたこと、浅妻他(2011、雑誌論文)で示されるように、中古車輸出国の変化が国内の輸出港の変化とも密接に関連していることとしていること、などである。

ニュージーランド向け輸出について、阿部(2011、図書①)が、輸出が発生した経緯や特にその初期(1980年代後半)の流通量の変化の要因を探るため、輸出入双方の制度改正を精査したことも特筆される。

なお、この中古車流通について、研究開始当初は想定していなかったが、「中継貿易」「中継貿易拠点」が重要であることがわかった。浅妻・阿部(2010、雑誌論文⑨)、福田・浅妻(2011、雑誌論文①)では、「再輸出システム」という用語も用いて、日本からドバイを経由した中古車の世界各地への流通量変化を明らかにしている。これによれば、ドバイからは中東諸国、アフリカ諸国、中央アジア諸国へ輸出され、その中でもいくつかの国々で多くの輸出量が見られることがわかった。しかしながら、主たる輸出先は頻繁に変わることもわかった。つまり、ドバイが中継貿易拠点として存立しえたのは、輸出相手国の選択肢の多さであると結論づけた。さらに、ケニアや南アフリカも、ドバイと同様に中継貿易拠点としての役割を担っていることがわかった。

(2)産業の実態調査を通じたリサイクルネットワークの把握を行った。研究期間中、対象産業として念頭においていたのは、実質的には中古車や中古部品のディーラーも含めた「自動車静脈産業」であった。関係する業者の状況（立地する地域、立地件数、産業規模、従業員数や取扱台数、取引相手、取引先国など）とその変化をヒアリングや各種資料から明らかにし、これによってリサイクルネットワークの現状を把握しようと試みた。

日本側については、浅妻他(2011、図書①)で、小樽や富山といった輸出が盛んな地域における輸出業者の動向を整理し、中古車の国際的なフローが輸出業者の立地状況に大きな変化をもたらしていることを明らかにした。また日本海側ではロシアとのネットワークが強いが、ロシアの規制変化で日本海側からの輸出が困難になると、横浜や名古屋といった大都市圏を事業の中心とする業者もあ

る。関連して、浅妻他(2011)では、日本の港湾別に輸出先が大きく異なっていることを明らかにした。廃車フローに関わる現状の空間システム把握のためには重要な情報であった。

海外における関連産業の実態調査は、いくつかの研究で整理した。竹内・浅妻(2009、雑誌論文⑩)は、ロシアのウラジオストクにおける中古車輸入・販売業者の状況を2009年の調査時点を中心にフォローした。2008年の関税引き上げ後、輸入業者が激減しており、流通形態もハーフカット輸入が再開されるなど、日本との関係も変わってきていることを明らかにした。浅妻・阿部(2009、雑誌論文⑨)では、ドバイやシャルジャにおける中古車や中古部品ディーラーの業者数やその取引関係、産業を担う民族、そして、その発展プロセスについて明らかにした。日本との関係で、今後の中継貿易拠点としてのポジションが維持されるかどうかにも言及している。そして、福田・浅妻(2011、雑誌論文①)では、その研究を一步進め、ドバイやシャルジャについて、定点観測的に上記浅妻・阿部(2009)をフォローしたほか、各国の中古車や中古部品の取引において、民族毎に扱う商材が異なったり(右ハンドル・左ハンドルなど)、そのシステムの中で民族毎に役割分担が発生したりするケースがあることを明らかにしている。この点は非常に重要である。日本からの中古車輸出は多くがパキスタン人によって担われているが、輸出先国でもパキスタン人ディーラーが大きな役割を果たしており、民族的なネットワークが中古車の国際的な流通に影響を与えている。なお、同じように、中古部品についても、輸出入のネットワーク形成に民族が大きな役割を果たしていることが想定できることに言及した。

(3)廃車処理に関わる産業の立地動向

本研究では、研究の背景との関係から、輸出先国の廃車処理に関わる産業の立地動向についても考察した。阿部(2010、雑誌論文⑥)が、廃車回収インセンティブの有無という観点から、日本から大量の中古車や中古部品が輸出されているロシア、ニュージーランド、UAEについて、廃車処理に関わる産業の立地状況を、従来の我々の研究成果を用いながら整理している。ニュージーランドでは、ある程度リサイクルビジネスが成り立っているが、ロシアは現地で利用される中古車が多いにも関わらず、使用済み自動車を回収するインセンティブが低いことなどを明らかにしている。さらに阿部(2010、雑誌論文④)で、ロシアで部品回収目的の自動車解体業者の立地は多くは見られず、その理由として、貧富の差の存在を想定し、この場合、スクラッ

プ工場で資源として回収されるため、自動車解体業者は存在しないということが起こりうることに言及している。上記の(1)(2)の研究成果も合わせれば、国際的な自動車のリサイクルネットワークのあるべき姿について考察を深めていくための実態解明が相当進んだといえる。

なお、発表論文等の執筆者氏名にあがっている福田友子氏、平岩幸弘氏は研究開始当初からの研究協力者である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 11 件)

①福田友子・浅妻裕、日本を起点とする中古車輸出システムに関する実態調査、開発論集、査読無、87巻、2011、163-198

②阿部 新、ニュージーランド向け中古車輸出市場の形成と発展、山口大学教育学部研究論叢、査読無、60巻1号、2011、7-16

③外川健一・浅妻裕・阿部新、潜在的廃棄物としての日本からの中古車輸出の展開、経済地理学年報、査読有、56巻4号、2010、66-83

④阿部 新、ロシアにおける自動車解体のインセンティブ(自動車リサイクルの現実と課題 第77回)、月刊整備界、査読無、41巻12号、2010、46-49

⑤阿部 新、中古乗用車の貿易量に関する日欧比較—国際資源循環の観点から—、Discussion Paper Series (一橋大学経済研究所)、査読無、A531、2010、1-19

⑥阿部 新、中古車の越境移動と国際資源循環—政策分析に向けた論点整理—、Discussion Paper Series (一橋大学経済研究所)、査読無、A.530、2010、1-26

⑦阿部 新・浅妻 裕・外川健一、九州・山口における自動車リサイクル、九州経済調査月報、査読無、64巻2号、2010、23-33

⑧阿部 新・平岩幸弘・張 晶・浅妻 裕、中国黒龍江省の中古車流通と廃車処理に関する調査—ロシアとの関係に着目して—、北海学園大学経済論集、査読無、57巻1号、2009、169-199

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007362656>

⑨浅妻 裕・阿部 新、アラブ首長国連邦の中古車・中古部品流通に関する実態調査、開発論集、査読無、83巻、2009、121-143

<http://hokuga.hgu.jp/dspace/handle/123456789/572>

⑩竹内啓介・浅妻 裕、急変する日ロ間中古車・中古部品流通—ロシアの政治経済情勢に着目して—、北海学園大学経済論集、査読無、57巻2号、2009、35-63

<http://hokuga.hgu.jp/dspace/handle/123456789/727>

⑩浅妻 裕、中古車輸入制度の国際比較、北海学園大学経済論集、査読無、56 巻 1 号、2008、27-43
<http://hokuga.hgu.jp/dspace/handle/123456789/697>

〔学会発表〕(計 5 件)

① FUKUDA Tomoko, The Role of Pakistani Migrants' Association in Japan, ISA World Congress of Sociology 2010, July 15, 2010, Goteborg, Sweden

②浅妻 裕、廃車フローの国際化とリサイクルネットワークの再編、第 34 回日本環境学会研究発表会、2008 年 8 月 9 日、富山県立大学

③浅妻 裕、日本製中古車の広がりロシアにおける解体業者の現状(分科会 使用済み車流通の構造変化と業界の対応、における報告)、自動車リサイクル・環境フォーラム in 北海道(有限責任中間法人日本 ELV 機構・北海道自動車処理協同組合主催)、2008 年 6 月 6 日、札幌コンベンションセンター

④浅妻 裕、海外の自動車リサイクル事情-ロシアの現状を中心に-(パネルディスカッション 環境と自動車リサイクル 私たちにできること。における報告)、自動車リサイクル・環境フォーラム in 北海道(有限責任中間法人日本 ELV 機構・北海道自動車処理協同組合主催)、2008 年 6 月 7 日、札幌コンベンションセンター

⑤ ABE Arata, Current Situation of End-of-Life Vehicles in Japan, World Meeting of Dismantlers 2008, May 22, 2008, SZEGED, Tisza Hotel

〔図書〕(計 1 件)

①浅妻裕・外川健一・阿部新・福田友子・平岩幸弘、北海学園大学経済学部(未公刊)、廃車フローの国際化とリサイクルネットワークの形成に関する経済地理学的研究、237

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浅妻 裕 (ASAZUMA YUTAKA)
北海学園大学経済学部教授
研究者番号：70347748

(2) 研究分担者

外川健一 (TOGAWA KEN' ICHI)
熊本大学法学部教授
研究者番号：90264118

阿部新 (ABE ARATA)

山口大学教育学部准教授
研究者番号：30436745

(3) 連携研究者

()

研究者番号：